

## ●●● 学力調査の意義について ●●●

教育庁指導部 義務教育指導課長 市川 茂

かなり前になりますが、私が当課に指導主事として着任したときは、全国学力・学習状況調査もなく、東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に注目が集まっていました。当時は調査内容や結果の活用よりも地区や学校ごとの平均正答率が注目されることが多く、私たちの意に反して地区別のランキングが新聞等に掲載されるといった状況も見られました。平均正答率は、分かりやすいデータですが、児童・生徒の学力の状況を表す一つのデータに過ぎません。

学力調査は、各学校の先生方が調査によって得られた様々なデータについて、日々の児童・生徒の姿や学習データ、教育活動の内容や方法等と組み合わせて分析し、授業改善を図るなど児童・生徒への指導に生かしていくことに大きな意義があります。

### ◆結果が向上した項目にも着目したい

結果の分析となると、全都のデータと比較するなどして「課題探し」をすることが多いと思います。多くのデータから課題を探し、改善策を検討することはもちろん必要ですが、経年でデータを比較し、結果が向上した項目に着目し、その要因を分析することも重要です。

先日、訪問した中学校では、夏季休業期間中の校内研修会において、昨年度に比べて調査結果が向上した項目に着目し、それぞれの要因を分析していました。その結果、学校全体で力を入れてきた取組の成果が生徒の意識や姿勢に結果として表れてきていることが分かり、これまでの取組を継続・発展させるといった今後の指導の方向性が明確になりました。

各学校では、既に今年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について、結果分析や授業改善等を進めていただいているものと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

なお、東京都教育委員会では、昨年度から小学校10校・中学校10校を授業改善推進拠点校に指定しています。各拠点校では、学力調査の結果等を分析し、授業改善を推進する取組等を研究していただいております。その成果については、後日、都内公立小中学校等に発信いたします。

### 掲載内容

- 令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について
- 令和4年度「中学生科学コンテスト」について
- 令和4年度「理科教育カンファレンス」について
- 令和4年度「就学前教育カンファレンス」について

### ・東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」

児童・生徒の学びを支援する情報を紹介しています。



### ・メール・マガジン「Scrum—スクラム—」

最新号やバックナンバーは、こちらに掲載しています。

(URL [https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/mail\\_magazine\\_scrum.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/mail_magazine_scrum.html))



### ・YouTube内「義務教育指導課チャンネル」

「令和4年度 就学前教育カンファレンス」に係る動画等を掲載しています。

(URL <https://www.youtube.com/channel/UC0dZqHZ8PVXmLFmMYKDBC4A>)



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

# 令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について

## 今年度も、調査を実施しました！

### ◆ 実施期間

- ・ 児童・生徒調査 令和4年5月16日（月曜日）から6月24日（金曜日）まで
- ・ 学校調査 令和4年5月16日（月曜日）から6月10日（金曜日）まで

### ◆ 調査に回答した学校数及び児童・生徒数

学校種別	学校数（校）	児童・生徒数（人）
小学校	1,277	278,042人
中学校	622	212,044人

※小学校には、義務教育学校（前期課程）を含む。

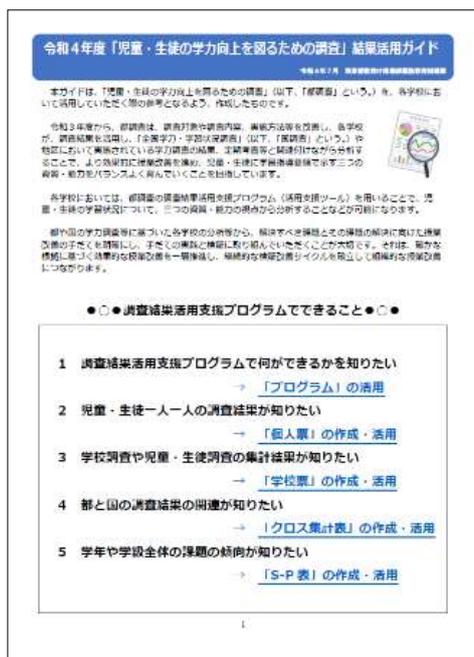
※中学校には、義務教育学校（後期課程）及び中等教育学校（前期課程）を含む。

### ◆ 結果

「令和4年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』東京都全体の調査結果」（仮）を令和4年11月頃に東京都教育委員会のホームページで公開する予定です。

## 調査結果を御活用ください！

東京都教育委員会では、各学校における調査結果の更なる活用を目指し、「令和4年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』結果活用ガイド」（以下「**結果活用ガイド**」）という。令和4年7月に区市町村教育委員会を通して各学校へ配布）を作成しました。



「結果活用ガイド」を使って、調査結果を活用してみましょう



調査結果を面談や保護者会で活用したい

➡「調査結果票作成機能」を使って出力した個人票を、学級活動や保護者会で活用するための方法を紹介しています。（次ページに、更に具体例を掲載）



校内研修で、教員と児童・生徒との意識の差を取り上げたい

➡教員全員で学校調査に取り組み、児童・生徒調査の関連する項目と比較する事例を紹介しています。（詳細は、「結果活用ガイド」P.11・12を参照）



今までとは違った、もう一步深い分析を行ってみたい

➡「項目集計表作成機能」を使って出力したクロス集計表を使って、都と国の調査結果の関連について考える方法を紹介しています。

（詳細は、「結果活用ガイド」P.13を参照）

各学校に配布した、「調査結果活用支援プログラム」（活用支援ツール）の「調査結果票作成機能」、「項目集計表作成機能」、「解答状況整理表作成機能」を用いることで、児童・生徒一人一人の学習状況について詳しく分析することなどが可能になります。校内研修や校内研究、保護者会、面談等で、調査結果を活用してみませんか。

## 個人票の更なる活用を目指して

「個人票」は、児童・生徒が、自らの学習の進め方のよい点や改善点を理解し、今後、どのように学習に取り組むとよいかを考えることができるように作成されています。また、教師や保護者が、児童・生徒の学習の進め方等の特徴を知り、日々の指導や支援の在り方を考える資料となります。

「結果活用ガイド」で紹介した事例とともに、以下の事例も御活用くださいますようお願いいたします。

### ◆小学校等における活用例〈保護者との面談〉

#### ① 必要な資料等

児童調査票、全国学力・学習状況調査や区市町村独自の学力調査、単元テストの結果等

#### ② 面談の流れ

主な内容	具体的な取組等
1 児童の学校での学習の取組状況について説明し、保護者と共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人票を示し、児童の学習の進め方の特徴について説明する。</li> <li>全国学力・学習状況調査等の結果を示し、児童の学習の進め方を踏まえた上で、学習状況について説明する。</li> </ul>
2 児童の家庭での学習状況についての情報を聞き取り、保護者と共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が学習で困っていることや保護者が気になっている点について聞き取る。</li> <li>児童の家庭での学習状況について聞き取る。</li> </ul>
3 児童が効果的に学習を進めるために必要な支援について、保護者と共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での支援、家庭での支援、家庭学習の取組等について共通理解を図る。</li> </ul>

#### ③ 実施上のポイント

- 保護者との面談の前に、個人票を活用した児童の振り返りの時間を設定し、児童が自身の学習の進め方をどのように捉えているかについて把握することで、より効果的な面談になることが考えられる。
- 保護者会やお便り等を通じて、保護者との面談の前に、学びに向かう力等を身に付けることの必要性等について周知することで、より効果的な面談になることが考えられる。

### ◆中学校等における活用例〈学級活動〉

#### ① 必要な資料等

各学校で作成している振り返りシート、個人票等

#### ② 学級活動の流れ

主な内容	具体的な取組等
1 授業や家庭学習への取組について振り返らせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等の授業への取組について振り返らせる。</li> <li>家庭学習について振り返らせる。</li> </ul>
2 個人票の各項目の振り返りを記入させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの学習の傾向を把握させる。</li> <li>今後の学習について、気を付けること等を考えさせる。</li> </ul>
3 個人票の内容を踏まえて今後の学習方法を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の各教科等の授業への取組み方について（どのような学習の工夫ができるか、自分の課題をどうすることで克服できるか等）、今後の家庭学習への取組み方について（自分に合った予習・復習の仕方）考えさせる。</li> </ul>
4 学習方法について共有させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで共有させる。</li> <li>共有した内容を基に、振り返りシートを修正させる。</li> </ul>

#### ③ 実施上のポイント

グループで共有させる際は、学習方法について他の生徒と比較したり、学習方法の優劣をつけたりするものではないことを、教師も生徒も十分に理解した上で活動に取り組むようにする。

研修会等において、個人票を基に面談での助言や授業での支援等について協議することで、児童・生徒に対する指導や支援が、より具体的になります。

# 令和4年度「中学生科学コンテスト」について

## 中学生科学コンテストとは

中学生科学コンテストは、生徒の理科・数学に対する意欲・能力を伸ばし、科学好きの生徒をさらに増やすことを目的として、平成25年度から実施しています。

本コンテストは、国公私立を問わず都内の中学校等に在籍する生徒3名がチームを編成し、理科・数学等の能力を競い合います。また、本コンテストで東京都知事賞を受賞した上位2チームは、東京都代表として、「科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場することができます。

## 今年度の概要

今年度は、148チーム、427名の生徒が参加しました。148チームのうち、区市町村立学校は30チーム、都立学校は54チーム、国立学校は17チーム、私立学校は47チームでした。

令和4年7月30日（土曜日）のコンテスト当日は、武蔵野の森総合スポーツプラザを会場に、実技競技2種目（各90分間）と筆記競技（70分間）を行いました。

## 今年度の結果

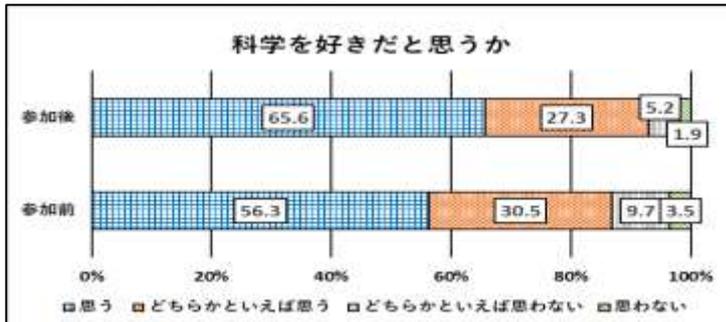
賞	学校名（数字はチーム番号）
<b>東京都知事賞</b> * 筆記得点と実技得点の合計得点が第1位と第2位のチーム	都立武蔵高等学校附属中学校 3
	都立小石川中等教育学校 1
<b>銀賞</b> * 筆記得点と実技得点の合計得点が第3位～第5位のチーム	千代田区立九段中等教育学校 1
	中央大学附属中学校 1
	都立武蔵高等学校附属中学校 2
<b>銅賞</b> * 筆記得点と実技得点の合計得点が第6位～第10位のチーム	都立武蔵高等学校附属中学校 1
	都立小石川中等教育学校 3
	都立小石川中等教育学校 9
	筑波大学附属中学校 1
<b>優秀賞（実技Ⅰ部門）</b> * 東京都知事賞、銀賞、銅賞のチームを除いた実技競技Ⅰの上位3チーム	渋谷教育学園渋谷中学校 4
	中央大学附属中学校 3
	東京大学教育学部附属中等教育学校 1
<b>優秀賞（実技Ⅱ部門）</b> * 東京都知事賞、銀賞、銅賞のチームを除いた実技競技Ⅱの上位3チーム	都立桜修館中等教育学校 2
	葛飾区立青葉中学校 3
	八王子市立宮上中学校 1
<b>優秀賞（筆記部門）</b> * 東京都知事賞、銀賞、銅賞のチームを除いた筆記競技の上位3チーム	宝仙学園中学校 2
	筑波大学附属駒場中学校 2
	筑波大学附属駒場中学校 6
	豊島岡女子学園中学校 3

## 参加者の感想など

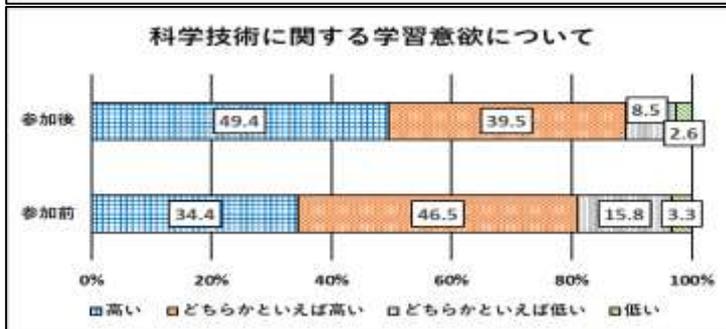
参加した生徒からは、「面白い問題に出会うことができ、モチベーションが上がった」「チームで取り組むことで、様々な考えを出し合いながら取り組むことができた」「科学に触れ、今までよりも好きになった」「自分たちの自由な発想で勝負できるところがおもしろかった」「3人で協力することで自分一人では出ないアイデアが生まれ、楽しかった」「ひらめき力が試されるところや仲間との団結力が深まるところが良かった」などの感想が聞かれました。

入賞チームは、令和4年11月27日(日曜日)のTokyo サイエンスフェアで表彰する予定です。

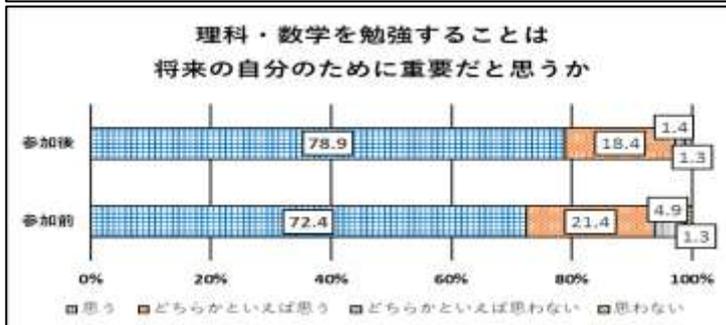
### 【参加者アンケートの結果】



コンテスト参加前と参加後で、科学を好きだと回答している生徒の割合が増えています。



コンテスト参加前と参加後で、科学技術に関する学習への意欲が高まった生徒の割合が増えています。



コンテスト参加前と参加後で、理科・数学が将来の自分のために重要だと感じる生徒の割合が増えています。

実技競技は、習ってきたことの応用力が試されているため、やりがいがあると思いました。



チームワークを発揮して、コマを作る課題では、きれいによく回るコマをつくることができました。



筆記競技でも時間を意識しながら担当を分けて取り組むなど、チームの協力を強く意識することができました。



本コンテストの実施に当たり、当日の係や生徒の引率など、各学校の先生方及び保護者の皆様に御協力いただき、感謝を申し上げます。中学生科学コンテストは来年度も実施する予定です。多くの中学生の皆さんの参加をお待ちしています。



# 令和4年度「就学前教育カンファレンス」について

東京都教育委員会では、就学前教育と小学校教育との円滑な接続及び就学前教育の重要性を、保育・教育関係者に広く啓発を図ることを目的として、年1回、就学前教育カンファレンスを開催しております。今年度は、7月28日（木曜日）に杉並公会堂大ホールにて開催しました。今年度、文部科学省の「幼保小の架け橋プログラム」に関わる事業がスタートしました。このような点からも、就学前施設の保育者の方はもちろんのこと、小学校の先生方にもぜひ以下に紹介する動画を御覧いただき、就学前教育と小学校教育との円滑な接続や就学前教育の重要性について理解を深めていただければと思います。

## 動画の視聴方法について

就学前教育カンファレンスの動画は、**東京都教育庁指導部義務教育指導課**  
**YouTubeチャンネル**に掲載しています。

東京都教育庁指導部義務教育指導課

YouTubeチャンネル リンク先

こちら↓↓↓

<https://www.youtube.com/channel/UC0dZqHZ8PVXmLFmMYKDBC4A/featured>



令和3年度の就学前教育カンファレンス動画も、併せて掲載しています。

二次元コード

## 動画の内容について

今年度は、次の4本の動画を掲載しました。

- ① **東京都教育庁指導部義務教育指導課**  
**「就学前教育と小学校教育との円滑な接続について」**

就学前教育と小学校教育との  
円滑な接続について

東京都の就学前施設と小学校との接続の現状と課題について説明しています。また、研究開発委員会（就学前教育部会）が作成した、就学前施設での学びと育ちを小学校に伝えることができるシート（次ページ参照）についても紹介しています。

- ② **荒川区教育委員会、荒川区立第七峡田小学校、荒川区立町屋幼稚園**  
**実践報告「幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発事業」**

### 研究報告

「幼小の一層の円滑な接続を図るための  
教育課程の研究・開発事業」

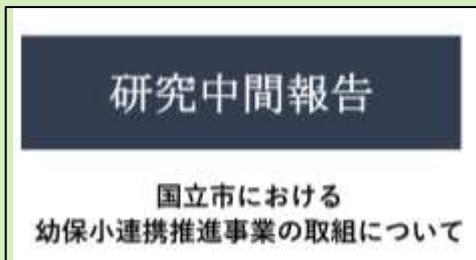
令和3年度の取組について

令和4年7月28日  
荒川区教育委員会

荒川区教育委員会は、幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発を進めており、本動画は令和3年度の取組の報告です。

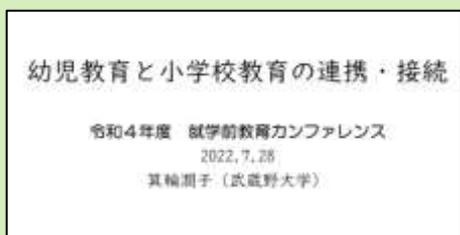
幼小の接続について、荒川区立町屋幼稚園と荒川区立第七峡田小学校での実践的な取組を紹介しています。

③ 国立市教育委員会、国立市子ども家庭部保育幼児推進課  
実践報告「国立市における幼保小連携推進事業の取組について」



国立市では、国立市教育委員会と国立市子ども家庭部が連携し、幼保小連携推進事業を行っています。本動画では、部局を越えた連携や、国立市内の小学校を核としたグループを編成し、実践している連携推進の取組について発表しています。

④ 講演「幼児教育と小学校教育の連携・接続」  
講師 武蔵野大学教育学部幼児教育学科 教授 箕輪 潤子 先生



文部科学省が進めている、「幼保小の架け橋プログラム」について説明しています。また、幼児教育と小学校教育の教育内容と方法の違いについて整理して取り上げられていますので、互いの教育方法についても理解が深まります。



令和3年度研究開発委員会（就学前教育部会）の資料について

東京都教育委員会は、研究開発委員会を設置し、教育課題に関わる教育内容や指導方法等について研究開発を行い、その成果を普及・啓発することで学校教育の改善・充実を図っています。

就学前教育部会では、「学びと育ちをつなぐシート」を開発しました。このシートを活用することで、各就学前施設での学びや育ちを反映したスタートカリキュラムを編成・実施することができます。

開発した資料は、東京都教育委員会ホームページ内の「就学前教育」よりダウンロードができます。是非、御活用ください。



「就学前教育」のページのURLは、次のとおりです。

[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/pre\\_school\\_learning.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/pre_school_learning.html)

二次元コード